

Constellation of stars news

「煌星」

きらぼし／ほしのきらめき

MORISEA SAID

Connecting the dots (点と点をつなぐ)

第11回 SEISA Africa Asia Bridge 2025が無事終了いたしました。今年度は総参加者数 10,593名、大使館15カ国にご参加いただいたということで大盛況でした。アフリカの国々の調べ学習を通してまずは「知ること」それを展示発表してほかの人たちにも見てもらうことで「繋がる」こと、「知繋(ちけい)」の実現と学びを通してSDGsの具現化を体現できたのではないかと思います。

今回、SEISAアカデミーではSAABのテーマを2本立てにしました。1つ目はブルキナファソの調べ学習とブルキナファソ出身の建築家「ディエベド・フランシス・ケレ」の西洋のコピーではない、その土地、地域に根差した建築思想を学ぶ。もう1つはルワンダアートの「イミゴンゴ」から作曲とオリジナルイミゴンゴ制作。この学びを通して感じたのは大人になってもまだ知らないことがたくさんあるということですね。私たちスタッフもSAAB期間は子どもたちといっしょに学んでいます。

「SAABとは一体何なのか?」子どもたちになかなか落としきれないまま限られた時間の中で物事が進んでいってしまうこともあります、その流れに乗ることも必要です。全てを理解しきれていくなくても、その時は意味がないように思えることも、色々な経験をしていくことで後から繋がることが多々あります。子どもたちにはこの、「Connecting the dots」の考え方を持ってほしいです。過去の知識や経験(点)が将来思いもよらないことに結び付く。この言葉はスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式スピーチで語ったことで有名になりました。今はこの点を増やす活動にSEISAアカデミーは力を注ぎたいと思います。来年度もSEISAアカデミーらしいSAABを通しての学びの充実・発展をしていきたいと思います。

月間スケジュール (11/24~2026(令和8)年1/10)

日	月	火	水	木	金	土
23	24 煌星33号発行	25	26 サイパン事前学習(中2) 校外学習③	27	28  上弦	29 保護者会④
30	12/1 	2 	3 特別授業「ART」	4	5  満月	6
7	8	9+	10 特別授業「調理」 ※高校生必修	11 みかん狩り (3期生)	12  下弦	13
14	15 煌星34号発行	16 特別授業「漫画史とデザイン」	17 特別授業「理科実験」 1月生入学試験(PM)	18	19 冬休み前最終登校日	20 土曜体験講座説明会  新月
21	22 --冬休み--	23	24	25	26	27 --
28  上弦	29	30	31	1/1  満月	2	3 --

4 -----	5 -----	6 -----	7 --冬休み-->	8 登校開始	9	10
------------	------------	------------	---------------	-----------	---	----

【リマインド&お知らせ】

●11月26日(水)、中2生は星槎中の2年生と合同でサイパン事前学習に参加します。いつも通り登校してください。【時程】9:30~11:30(10分休憩あり)

●12月11日(木)3期生みかん狩り(参加費3,000円は別途徴収いたします)

●12月16日(火)藤堂高直さんがアカデミーに帰ってくる!!特別授業「漫画史とデザイン」

【前半】10:00~11:50 漫画概論+ワークショップ(途中休憩あり) 11:50~12:30 ランチタイム

【後半】12:30~13:20 アニメ概論+質疑応答 13:40~通常時間割

【ちょっと先のお知らせ】 ※予定は変わることがあります。クラスルームでのお知らせも併せてご確認ください。

●1月17日(土)英検

●1月19日(月)後期学力検査

●1月22日(木)~24日(土)スキー実習(希望者のみ)

●1月31日(土)保護者会④

横浜鴨居(高校生)後期試験予定

●12月9日(火)2年生冬休み前最終登校日、12月11日(木)1年生冬休み前最終登校日

●1月6日(火)2年生登校開始、1月8日(木)1年生登校開始、各学年試験対策授業

●1月13日(火)2年生後期試験、1月15日(木)1年生後期試験

●1月20日(火)2年生試験返却、1月22日(木)1年生試験返却

特集1: Making for SAAB

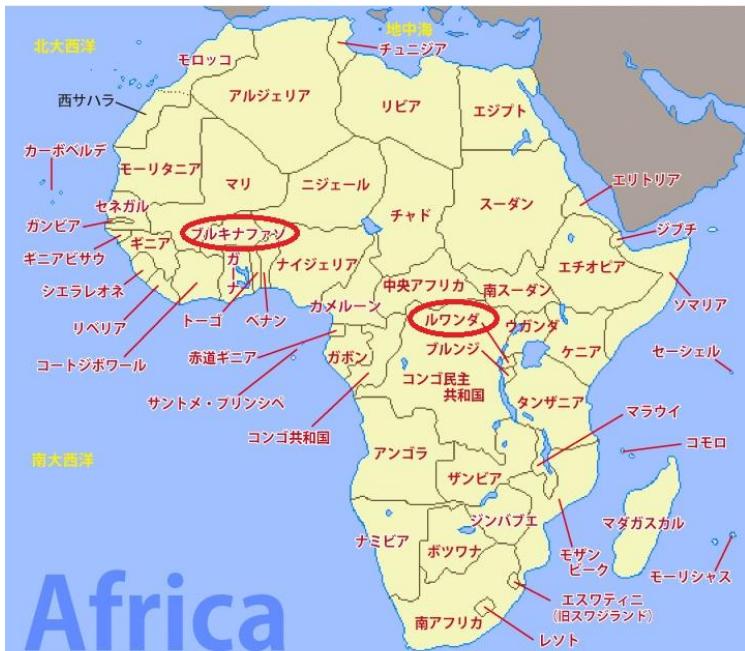
アカデミーの今年のテーマ「イミゴンゴ」「フランシス・ケレ」

<イミゴンゴとはなんだ>

イミゴンゴは、ルワンダで人気があり、伝統的に女性たちによって牛糞を用いて製作されてきた伝統工芸品です。黒・白・赤を基調とし、螺旋状や幾何学模様を壁や陶器・キャンバスに描くのが一般的で、もともと18世紀にキブンゴで「魔法の装飾」として小屋の壁面に描かれていたものもあります。中等部では、イミゴンゴ系の看板や曲、ロゴを作成します。

<フランシス・ケレとは>

フランシス・ケレは、ブルキナファソ出身の建築家です。アフリカ人として初めて建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞しました。2023年には日本でも高松宮殿下記念世界文化賞(建築部門)を受賞しています。初等部ではマイクラを使って彼の建築した建物を中心に再現します。



ルワンダ共和国

内陸国であり、西はコンゴ民主共和国、北はウガンダ、東はタンザニア、南はブルンジと国境を接する。アフリカで最も人口密度が高い国。1962年独立。人口1,425万人(世界75位)。人口密度589人/km²(日本:338人/km², 神奈川3,815人/km², 兵庫県635人/km²)。

ブルキナファソ

内陸国で、北はマリ、東はニジェール、南東はベナン、トーゴ、南はガーナ、南西はコートジボワールと国境を接する。国名は現地の言葉で「高潔な人々の国」(「ブルキナ」はモシ語で「高潔な人」、「ファソ」はジュラ語で「祖国」を意味する)。人口密度は76.4人/km²。

特集2: This is the SAAB2025

2025年11月15日（土）第11回 SEISA Africa Asia Bridge 2025が星槎高校を舞台に開催された。11回目を迎えたSAABは、大使館関連15か国、国会、外務省、横浜市からのゲストをはじめ、多くの参加者で会場は溢れた。加えて今回もオンライン4チャンネルの中継を展開した。総参加者数は10,593名であった。SEISAアカデミーも参加3回目を迎え、昨年にも増して多くのメンバーが参加した。

オープニングセレモニー

オープニングセレモニーでは、お神輿が登場しゲスト含めた参加者が力を合わせて担いで出御した。国連、大使館、外務省からのご挨拶をいただき、オープニングスピーチとして『これからの若者のアフリカとアジアの関わり方・未来の作り方』立命館アジア太平洋大学学生にお願いした。続いて、SAAB future宣言を行うとともに、締めはアフリカン神輿還御となって第11回SAABが開会した。

sTEDファイナル

sTEDファイナルは、予選を勝ち抜いた6組に加え、マリアナハイスクール(SAIPAN, US)、ノーザンバリーリージョナルハイスクール(NEW YORK, US)、ぐんま国際アカデミーの全9組で行われました。ファイナルで栄えあるチャンピオンとなったのは星槎高校と鴨居学習センターでした。

(ファイナル進出)

星槎国際高校厚木学習センター、星槎国際高校横浜鴨居学習センター、星槎学園高等部北斗校、星槎学園高等部横浜ポートサイド校、星槎高等学校、星槎名古屋中学校

sTEDオープン

今回sTEDにはK君が初めて参加しました。時間のない中素晴らしいプレゼンテーションをしましたが、残念ながらファイナルには進めませんでした。同様にファイナル進出ならなかった10組は、sTEDオープンとして当日動画で力作を放映しました。古壇審査委員(星槎大学)からは以下のようなメッセージをいただいております。

「K君の作品に対して率直な感想をいえば、「これはすごいな！」が最初の印象でした。K君には自分の好きを突きつめながら、それをきちんと表現できる力があるのだなと感じました。sTEDの事前講義のなかで、プレゼンには「根」と「翼」の両方が大切だよと言いましたが、K君の作品にはその2つが備わっているように思いました。感情や熱量のあるプレゼンは個人的には好きです。よくぞここまで！という内容でした。今回いろいろ想うところがあると思いますので、それをぜひ次回の作品に活かしてください。来年も楽しみにしております。応援しております。」

とのことでした。待ってろ来年ですね。

アカデミーブース

フランス・ケレの建築をマイクラで作成した動画と作者による説明をモニターで流しました。また、作成したイミゴンゴの作品も発表しました。伝統的なデザインを取り入れつつオリジナルデザインもあります。また、BGMはオリジナルです。

かぎ針編みで作成したアフリカンフラワー販売もしました(Kさん)。アフリカらしいデザインの作品はいくつかつなぎ合わせることで、コースター、ブランケット、バッグ、ぬいぐるみなど、様々な作品を作ることができます。また、インド・ス



リランカ発祥のアーユルヴェーダ(「生命科学」を意味する伝統医療)についての調査の掲示もしました(Sさん)。

YOSSY's ROOM

今年もアカデミーとしてSAABに参加し、その学びの対象国は【ブルキナファソ共和国】と、【ルワンダ共和国】でした。私は【ルワンダ】の伝統工芸品である《イミゴンゴ》について皆と掘り下げ、オリジナル作品の制作にとても熱中することができました。《イミゴンゴ》の本物の原材料には牛糞が使われており、黒・白・赤を基調とし、螺旋状や幾何学模様を壁や陶器・キャンバスに描くものでとても惹かれるものです。

ルワンダといえば私は今まで「ホテルルワンダ」「ルワンダの涙」という二作の映画くらいしか情報をキャッチしていませんでしたが、この二作品が非常に凄惨で衝撃的な内容で、記憶に刻まれています。約30年前に起こった民族対立が原因といわれている大虐殺の歴史です。そこでこの《イミゴンゴ》の技術はほとんど失われてしまったといわっていましたが、女性の協同組合がこの独自の芸術を救い復活させたようです。

今年は中学高校各クラスのブースを観て回ることに少し時間が取れました。昔、学んだことや今学んでいることが、いつかどこかで何かが繋がります。そういう意味では私にとってSAABはとても有意義であり、また来年も楽しみな催しだ、ということを再認識させられるものでした。

♪♪♪♪ 話は変わりますが、【OASIS】東京ドームライブに参戦してきました！♪♪♪♪
そこで【Cigarettes&Alcohol】演奏時にポズナンを初めて体験しました。サッカープレミアリーグ好きな方は知っていると思いますがマンチェスターFCの応援で、サポーターがほぼピッチとは逆を向いて応援するあれですね。隣の同じ齢くらいの方が「肩組んでいいですか！？」と持ち掛けてください気付けば東京ドームの観客ほぼ全員がステージと反対を向き跳んでいました！いやあ楽しかった！しかし、バンドはマンチェスター好きすぎやろ！！ 続きは次回の煌星で。

あいちゃんだより

今月15日SAAB(SEISA Africa Asia Bridge)が開催され、アカデミー生も調べ学習の成果を展示することができました！アカデミー生の展示はブルキナファソについての調べ学習やオリジナルイミゴンゴの制作、ブルキナファソ出身の建築家フランシス・ケレとその建築に関するまとめやアーユルヴェーダや3Dプリンタによる作品、イミゴンゴから着想を得た音楽制作、マイクラフトによる建築など多岐にわたりました。アカデミー生の展示を観ているとほかの国の文化を知るというのはいろいろな方法を通してできるもので、直接話し合ったり、音楽を聴いたり、インターネットで写真や映像を観たりするだけではないのだと思づかされます。料理を食べるというのもまた文化を知る方法の一つの方法なのかもしれません。校庭のキッチンカーでは聞いたことのないアフリカの料理用意されていました。いろいろ迷った末に「スンバラライス」という料理を購入しました。初めて聞く名前でどんなも味なのかも分かりませんでしたが、自分の勘を信じてドキドキしながらの注文でした。料理を食べて、美味しい気持ちを共感するというのもまた文化を知ることだと思います。後で調べて分かったのですが、スンバラというのは西アフリカ内陸部にある独特の調味料で、主にネレ(ニエレ)の実を発酵させて作るもので、ご飯と一緒に炊くことでスンバラライスとなるようです。スンバラライスの上にチキンと野菜のソテーが添えられていて美味しかったです！皆さんSAABに参加して、どんなことが印象に残っていますか？アフリカンミュージックの迫力でしょうか？星槎中学や星槎高校の人の展示でしょうか？心に残ったものがあったら是非今度聞かせてください！

今月のクイズ

ハテナに入る言葉は何。

198→再従兄弟

978→土耳古

379→鳴門

256→?

今月のクイズはこれです。解答を、いつも通り academy@seisa.ed.jp まで送信してくださいね。

【前回の解答です】

前回の問題は、解答者の性格によってはなかなかの難問でした。私は嵌《はま》って3日かかりました。問い合わせは「右にあるパートを全て組み合わせろ。答えは二字熟語。」「二字熟語」を答えるのではなくパートをどう組み合わせるかの問い合わせでした。「二」「言」「子」「子」「五」「ウ」「口」「口」「六」「丸」「、」「、」やられた。最速正解者は、N君父。第二位は18分差で、N君母でした。

編集後記

色々なことが進んでいきます。SAAB も終わりました。SAAB の始まりから見てきた一人としての感想ですが、PAL の姿勢が参加者によってかなり濃淡がある気がしました。「SAAB は文化祭のようなイベントではなく学びの場でなくてはならない。こどもたちが未来を自分で考えるために SAAB をやるんだ！種まきなんだよ！」というのは星槎の創設者であり SAAB の発案者である故宮澤保夫の強い思いです。そして SAAB での PAL (Participate And Learn: 参加して学ぶ) の実現は参加者個々の気持ちによります。参加したアカデミー生はどうでしたか？加えて、御来場された保護者の方も地域の方も参加者です。みなさん SAAB ならではの学びはありましたか？星槎の学びはもちろんこども達が主役ですが、星槎に関わる全ての人が学習者でもあります。特に保護者・スタッフなどは種が育つように支援する役割もあります。自ら学びながら伴走する方法も大事ですが何のためにという目標を忘れないことも肝要なのは言うまでもありません。SAAB は6月祭でもなく、保護者会でもありません。ルワンダの伝統工芸品、ブルキナファソの著名な建築家のことは知ることができましたか。他のブースは回りましたか。

閑話休題。

先月「ぜひ読書を」とここに書きましたが、まだ読書が進んでいない方は、その読書候補に「通信制高校のすべて 2.0」を加えてみてください。もう初版が刷り上がりましたが11月25日に発刊予定です。前作からはや5年、通信制高校をめぐる状況も変化してきました。今の高校教育を知るには面白い内容だと思いますよ。前作では第1章担当でしたが、今回はまとめのほうを担当しました。何年か後に「3.0」が出るときには SEISA アカデミーのことを中心にして今から思っています。

さて、まだまだ SEISA アカデミーは世の中で知られていないと感じています。今年は、いくつかの教育関連学会などで実践報告などして、少しずつではありますが専門機関の中ではその存在を知られるようになってきていますが、もう少し皆さんの様子と声を社会に届けたいと思っています。おそらく、今の教育制度の中で困っている人たちはたくさんいるはずなのです。

昨年度この国的小学校中学校で不登校だった人は35万人以上います。こどもの数が減っていて、不登校の実数も増えているのに調査結果を受けて「不登校児童生徒数は、(原文ではここに人数を記載) 過去最多となったものの、増加率は、小学校5.6% (前年度24.0%)、中学校0.1% (前年度11.4%)、小・中学校全体で2.2% (前年度15.9%) であり、いずれも前年度と比較して低下し、特に中学校の増加率は小さかった。また、学年別に見ると、小学校1年生、中学校2年生における不登校児童生徒数は前年度から減少した。」とまとめられています。なんかいいぶりが変ですよね。そして、不登校の理由トップは調査開始時からずっと「やる気が出ない(無気力)」です。

一方、こども家庭庁が発刊している「こども白書」令和6年度版の特集3「日本のこども・若者の意識の現状」では、自尊感情は諸外国に比べてよくいわれている通り低くはありましたが(2023年調査)、その数値は前回調査(2018)よりなんと向上しているのです。COVID-19の影響で世界では自尊感情のスコアが下がる中日本では上がっているのです。この間は不登校の増加率も極めて高くなっていたのにかわらずです。学校に行かないこども達の数が激増しているのに自尊感情がよくなるなんていったい学

2025年11月24日 星槎アカデミー通信 第33号

校とは何なのでしょうか。

全員とはいきませんが、何人かのアカデミー生と保護者の方にお願いして現在アカデミーに関する記事を書いてもらっています。アカデミーの内容なども書いて、A5判50ページ程度の手作り冊子になると 思います。アカデミーのことを多くの求めている人に伝わるように来年1月目指して完成予定です。ご入用の方はぜひスタッフまで声をかけてくださいね。(YM)